

桐生・足利産地賛助会員との 交流と勉強会

■ 2001年11月20日

■ 見学先: 染殿 野口染工 共立織物 黒沢レース
フリーディスカッション会場: 染殿サロン
参加者: 会員20名 賛助会員6社

組織・交流部会 (関東)



朝の高速パーキングにて



熱心に工場を見学

現状の日本のカーテンは、まだまだドレープ&レースを別々に考える事が多く単体で考えてしまうし、また売ってしまうという傾向が強い様に思います。その結果、予算内で一番好きなドレープを金額の見合う中で決め、残りの部分でプレーンで安価なレースと組み合わせるとい事が実態です。

本来ならば昼間もレースカーテンは閉めているのですから、見ている時間がダンゼン長いのはレースのほうなのに何故かドレープがメインに決められていくというレースにとっては悲しい事態となっているのです。これはカーテンを作っている人とカーテンを売っている人の意識の改革がなければ変える事は出来ないと思います。

その為には日本のこれからの住空間をどうコーディネートしていくかという大きな課題にもつながると思いますが、私達デザイナーは自分の出来る範囲で一つの物を作るのではなく、いつも空間を作る中で一つの物という意識を持つ必要があるのではないのでしょうか？

業界としては、これだけ多くのアイテムを持っているのですから、より良いコーディネート为消费者に提案する事が出来る仕組みが整えられれば、おのずとレースもボイル、ニットという枠をはずした所で、それぞれの長所を生かす事が出来るようになると思います。

— 大場麻美

今回は、産地見学会に参加し、フリーの立場では普段見られない産地工場のものづくりに取り組む姿勢や、実際の物が出来る過程が見られたことは大変有意義でした。今後もこのような機会があれば是非参加したいです。

— 古関崇尚

組織交流部会(関東)では、会員の方々が協会に入会しているメリットをお互いに高め、デザイナーのより良い環境作りと将来の可能性を広げるために、会員同士が誘い合い、お互いの親密な交流と情報交換が図れる交流会を計画・実行しています。4月27日に第1回目をスタートし、毎月一回小さな集まりで開催してきました。このミニ交流会から発展して、この度、桐生・足利産地メーカー、賛助会員の方々と会員デザイナーとの交流ならびに勉強会を産地メーカーのご協力のもとに行なう事が出来ました。

メーカーとのディスカッションでの課題は、産地メーカーも開発型メーカーとして21世紀の各業態にふさわしい新たな流通のあり方を模索していくことでした。産地の特性・技術を引き出し、それを感性と結びつけ、消費者の目で見えた価値観を持った商品開発と、商品制作意図を十分に消費者に理解していただけるようなデザインポリシーのある売り方をすることが重要である。それにはデザイナーとメーカーがより多くの接点を持って、デザイナーと作り手、売り手、使い手が一体となって、企画・生産・販売まで一貫したデザイン政策が必要とされているという事でした。

産地メーカーとデザイナーが商品の共同開発を進めるにあたっては、デザイナーは素材の特性、機械の特性を理解し、また産地の設備、プリント、織・編の生産時の条件を良く知った上でデザインを起こし、具体的に商品化できる知識が必要とされます。今回、工場での生産の現場を見ながら、メーカーの方々から大変親切な説明を聞かせていただき、具体的な商品化の知識の重要性を身に付けることができ、参加者は大変勉強になりました。

次回は立場の異なった方々(異業種)の交流会を計画しています。

(リポート 中山陽子)



参加した皆さん



セミナーでは活発な意見交換ができました。